



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

懐かしの1枚
駅前通り商店街のアーケード
高瀬町 昭和47(1972)年頃

大正2(1913)年の上高瀬駅(現、高瀬駅)の開業にともない、線路に並行して新設された道路沿いに発展したのが、駅前通り商店街である。昭和40(1965)年頃からは、店舗数も大幅に増加し、昭和50(1975)年頃が最も繁栄していたという。その頃にはアーケードも設けられていた。

「思い出の1ページ」

「このころは、商店街が一番流行っていたときですね。人通りが多く、にぎわっていましたよ。ああ懐かしい」
当時の記憶に思いを馳せるのは、現在もこの駅前通り商店街で薬局を営む宇川英二さん(77)と百合子さん(75)。
「このアーケードは、商店街の6軒のお店でお金を出し合って設置したものです。電気代を店の間口の広さに合わせて負担していました。父がずっと組合の世話をしていましたよ」と、英二さんは当時の記録が分かる書類を確認しながら、教えてくれました。
「毎朝、アーケードを開けて、日差しが差してきたらひもを引っ張って閉めるんです。ここは高瀬町のメインストリートだったので、店や家が隙間なく並び、人が途切れることがなかったですよ。子どもも多かったですから、登校班が何列も連なって学校へ行っていたのを覚えてます」と百合子さん。
高瀬駅の利用者も多かったため、お店は夜9時、10時まで開いていたと言います。閉店後には、近所の子どもたちが明るいアーケード街に出て、ローラースケートやバドミントンをして遊んでいたそうです。
同じく駅前通り商店街で食

料品店を営む大鹿リツ子さん(82)は、このころ、八百屋を営んでいました。
「アーケードがあったときは商売が繁盛していたね、毎日が忙しかったですよ。野菜や果物がよく売れて、午前中にはほとんど無くなっていました。ここはアーケードのおかげで夏は涼しく、雨もしのげてお客さんにも好評でしたよ」
その後、商店街のシンボルだったアーケードは、固定式の屋根になり、いつのころか劣化のため撤去することになりました。月日とともに移り変わった商店街。皆さん、その変化を名残惜しそうに振り返っていました。

編集 後記



今月にはスポーツ少年団の取材に行ってきました！幼稚園の子から小学生、中学生、一般の方まで、幅広い世代が一生懸命に打ち込んでいます。練習中は集中している場面もあれば、にこにこ和む場面もあり、スポーツを純粹に楽しんでいる雰囲気が伝わってきました。そして、一番に感じ取れたのが、指導者の皆さんの「人としても成長してほしい」という願いでした。子どもたちには、スポーツを通じて、大きく成長してほしいと思います。